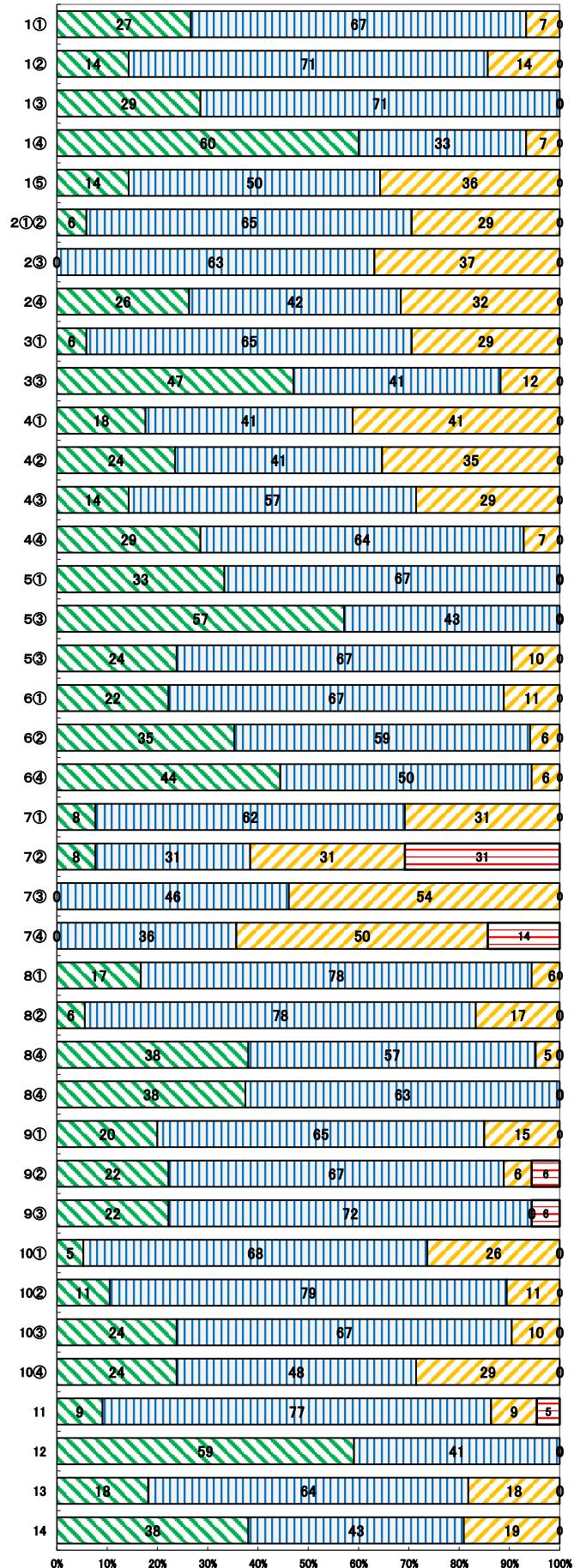


令和２年度 職員用アンケート集計結果 （Ｒ２．12実施）

資料 4

	設 問	評価
1①	基礎学力定着のために、反復練習の指導を工夫した。	3.2
1②	学習習慣を確立させるために、家庭学習の量や内容を見直し、必要に応じて改善した。	3.0
1③	漢字・計算コンクールを通して、基礎学力が身についたかどうかの確認をし、個に応じた指導を行った。	3.3
1④	朝の読書や読書週間を通して、たくさんの本を読むように指導した。	3.5
1⑤	調べ学習等で、図書室や学習室にある本を活用した指導を行った。	2.8
2①②	単元構想の中に「学び合い」を位置付けて実践し、分からないことを聴いたり、考えを聴き合ったりさせることができた。	2.8
2③	話し合う活動において、考えの伝え方・聴き方などの話型の工夫について、発達段階に応じた指導をすることができた。	2.6
2④	「学び合っていること」や「寄り添って一緒に考えていること」を褒めることができた。	2.9
3①	プログラミング的思考の育成を意識して、授業を行うことができた。	2.8
3③	ビスケットやスクラッチ等を使って、プログラミング教育を行った。	3.4
4①	問題解決的な学習を取り入れたり、体験的な活動と関連付けた授業を組み立てたりしながら、計画的に授業を行うことができた。	2.8
4②	多様な感じ方や考え方が引き出されるよう、主発問や補助発問、児童の発言への切り替えし等の工夫をすることができた。	2.9
4③	動作化や役割演技等、児童の表現方法を工夫した授業を展開し、多面的・多角的に物事を見ることができるよう実践した。	2.9
7④	道徳ファイルを活用してワークシートを蓄積し、児童の成長や変容の様子を見取ったり、指導に役立てたりすることができた。	3.2
5①	児童が進んであいさつができるよう指導した。	3.3
5③	担任は、1日の生活の中でクラスの児童全員と言葉のやり取りをしたか。担任以外は、積極的に児童とのコミュニケーションをとった。	3.6
5③	職員間で、児童のよいところを伝え合った。	3.1
6①	4・5・6年担任生活意識アンケートの結果やほけんだより等を活用し、レジリエンスに関する指導を行った。	3.1
6②	児童への食育の指導の中で、バランスよく食べるよう指導した。	3.3
6④	児童が、なわとび運動に目標をもって取り組むよう指導した。	3.4
7①	地域や外部ボランティア・ゲストティーチャーを活用することにより、学習内容の充実が図れた。	2.8
7②	必要に応じて、家庭や地域に向けて人材募集を行った。	2.2
7③	事前打ち合わせで本時のねらいを明確にすることで、地域や外部ボランティア・ゲストティーチャーを効果的に活用することで、学習内容の充実が図れた。	2.5
7④	事後評価し、次年度の参考になるように改善点など記録を残した。	2.2
8①	重点目標や学校評価の具体的な取組を意識して教育活動に取り組んでいる。	3.1
8②	班別評価表の取組等を生かして、学校改善・授業改善に取り組むことができた（評価項目での振り返り、授業や行事などのPDCA等）。	2.9
8④	各種便りや学校新聞、ホームページ等を通して、学校の取組や子どもの様子を知らせることができた。	3.3
8④	保護者との連絡や意思疎通を積極的に行っている。	3.4
9①	学年間や担当者間で情報を共有し、よりよい学校づくりに向けた取組を考え、実践することができた。	3.1
9②	授業研究を計画に沿って行い、授業力向上のため、他学級の授業を参観する機会を設けることができた。	3.1
9③	各部会で研究授業を実施し、指導案を基に、各教科の見方・考え方や授業における工夫などを共有し、自らの資質・能力の向上を図ることができた。	3.1
10①	校務分掌等、仕事が適正に分担されていた。	2.8
10②	提案事項について、よく検討され適切な助言がなされた。	3.0
10③	報告・連絡・相談体制が機能し、共通理解の下互いに協力し合えた。	3.1
10④	業務の精選が進んだ。	3.0
11	学校がきちんと整備されていて、教育の場としてふさわしい。	2.9
12	学校でけがをしったり、体調が悪くなったりしたときの対応が適切である。	3.6
13	学校は、非常災害時や不審者対策など緊急時の対応ができています。	3.0
14	学校では児童や学年に応じた働くことの意義や目的などを学ぶ機会を設けている。	3.2



□よくあてはまる □どちらかというあてはまる □どちらかというあてはまらない □あてはまらない